

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社カスターネット		
事業所名	グループホームかすたねつと 2階		
所在地	京都市左京区岩倉花園町401		
自己評価作成日	令和5年2月11日	評価結果市町村受理日	令和5年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JlgyosyoCd=2670600424-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和5年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様とご家族を尊重し、「想い・やりたいこと」を実現するために、日々の生活において楽しく安全に充実した人生を送れるよう、全力でサポートしています。あらゆる面で各個人のニーズや改善点を的確に掴み、日々期待を超えるサービスを提供するよう、全職員が統一した考えで職務を遂行しております。また、日常生活を通じて毎日の筋力体操や散歩などを行うことにより、筋力の維持向上に努めております。ただ、コロナ禍の期間は外出が自由にできず、筋力体操に力を入れています。玄関やホールには季節に応じた花を飾り、フロアには季節ごとの飾り絵を利用者様と共に作り上げ、展示することで皆さまに季節を感じていただけるようしております。これらを通じて利用者様と職員がお互いに喜びを分かち合えることと思います。事業所内では常にアットホームな雰囲気を通るく楽しい、充実した日々を送っていただけるよう常に笑顔を意識しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岩倉の閑静な住宅街の、かつての学生寮にエレベータを付けるなど、利用者の生活を考えて改修されています。居室は大きな押し入れがあり、季節ごとの不用品が収納でき、それぞれにスッキリとして広く使われています。食事は朝食、昼食は利用者の好みを入れた献立で、職員と利用者が一緒に作り、品数も多く温かくおいしい食事が作られています。また、利用者が洗濯物を干したり畳んだりされている姿は、介護度の平均は2階が3.0・1階が3.6で、平均年齢90歳と高齢化である中、家庭的な雰囲気の共同生活を大切にされています。コロナ禍でみんなと一緒に歌ったり、集まることに制限があり、「個々の利用者が何をしている時が楽しいのか」の把握に努め、書道や生け花、歌などで、個々の生活を豊かにされています。また、医療体制は24時間の連携体制が整い、必要時の往診や緊急時の対応、訪問マッサージを4人の方が受けられるなど、画一的ではなく、それぞれに必要な支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が「会社理念」・「私たちの行動指針」を理解した上での職務を遂行している。また、各利用者様が明るく楽しく、その人らしい生活を送っていただけるように支援も行っている。職員は日々の業務時間中やカンファレンスなどで話し合い、日々の振り返りと改善に努めている	玄関に「当たり前」に豊かな人生」と理念を掲示し、各フロアに「理念、目標、行動指針」を掲示すると共に、ホームページにも掲載している。職員は採用時の研修のほか、カンファレンスの時に理念に沿ったケアを話し合い、個々の利用者が何をしているのが楽しいのか、の把握に努め、把握出来たことは介護計画に載せて、できることを個別に実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長引くコロナ禍の間は、地域の方々との交流は理想通り実現できていないため職員は出勤時や外出時などを利用して、ご近所の方とのコミュニケーションを図るように努めている	町内会に入り地域の秋祭りを見に行ったり、子ども神輿を利用者は楽しみにされていたが、コロナ禍で中止となっている。地域の福祉委員の方から、地域の行事を教えてもらったり、ご自宅の庭への花見のお誘いがある。利用者の散歩や職員の出退勤時にご近所の方と顔を合わせた時に挨拶をしている。ボランティアの書道や生け花、音楽演奏などを楽しみにされていたが、「人が集まったり・大きい声で歌うことが自粛」で、来てもらえていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の住民の方にお会いしたときは必ず挨拶するなど普段から事業所の存在を認識していただけるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括や利用者様・ご家族様などの方々に運営推進会議への参加をしていただくことによって、施設の運営状況や行事などについてあらゆる角度から貴重なアドバイスを頂き、反映させることに努めている	運営推進会議はコロナウイルス感染症の宣言などにより、書面開催や対面開催で工夫をされている。メンバーは岩倉地域包括支援センター職員、老人福祉委員、事業所の管理者や職員で構成され、コロナ禍までは、家族代表が参加されていた。議題は入居者状況や、事故・ヒヤリハット、行事の取り組み、コロナウイルスに関する報告事項などで、資料を作成して書面開催時は事前に送付して意見をもらっている。メンバーの方の意見は情報提供が多く、コロナ禍で参加ができていないことも多いが、老人福祉委員の方のご自宅の庭の花見の情報もらい、近隣なので、桜の花を見に行っていて楽しんでいる。議事録はメンバーと行政に送付して、玄関にファイリングをして置いておき、誰でも見られるようにしている。家族には議事録を送付されてなかった。	運営推進会議のメンバーとして、家族に参加をもらい、意見がもらえる方法を検討されることが望まれる。また、家族への議事録送付で、家族の方も一緒に運営していく想いを持ってもらえるように取り組まれることを期待する。

京都府 グループホームかすたねっと 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	京都市の取組など(京都市情報館の通知内容についてなど)わからないことは市や区の担当者様に確認するようにしている 事業所の改善のための相談などは地域包括支援センターに相談している	介護ケア推進課担当者や保健福祉センターの担当者とはコロナウイルス感染症のことで、相談や依頼などの話し合いを頻繁におこなっている。また、運営推進会議の議事録を送付している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	【身体拘束廃止委員会】を3ヶ月毎に実施して全職員が身体拘束について話し合っている。個別動画研修でも確認し、常に現場での身体拘束にあたる行為が無いチェックも行なっている。	身体拘束廃止委員会は3か月毎におこない、メンバーを各ユニットの職員として交互に開催し、内容を全職員に周知し、確認印をもらっている。職員一人ひとりに必要な研修計画が作成され、身体拘束廃止の研修は年2回、動画研修に取り組み設問に答えるようになっている。ユニットごとの出入り口は鍵をかけずに生活をして利用者は出入りを自由に行っているが、出て行ってもすぐに入って来られるなど落ち着いた生活をされている。スピーチロックにも気を付け、職員の言動で気になったことは管理者や統括から注意をし、カンファレンスの議題にして話し合っている。	職員個々の研修計画を作成をされているが、他の職員には見ることが出来ないのので、キャリアパス表などで段階別の研修計画や資格取得などを明示し、全体が見えるようにすることで、職員が自分の将来像を思い描け、志気が高められることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、社内外の研修会やカンファレンスにて年に2回以上の研修・話し合いを実施している また日々のケアにおいて職員全員が虐待について常に意識して、業務を遂行している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を通じて、権利擁護や成年後見制度などについて知識を得る機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にはご本人とご家族に十分な説明を行って質問などがあればその場で解決するようにしている 契約内容に納得された上で署名、捺印をしていただいている。		

京都府 グループホームかすたねっと 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族のご意見やご要望を聞き、定期的なカンファレンスや連絡ノートを活用して職員全員が共有して日々の改善を行い実践している	家族からの意向は面会時や電話で聞いている。面会は行政の推進に従っておこない、コロナウイルスの宣言が出されている時は中止して、徐々に緩和している。今は、短時間で人数制限をして別室でおこなっている。看取りの時は普段通りの面会や宿泊も可能である。家族からの意見を聞いた職員は朝のミーティングで伝えたり、カンファレンスで伝え合い、連絡ノートに記入している。しかし、明らかな苦情は管理者や主任に伝えている。家族の意向である「入居まではマッサージをしていたので続けたい」との希望に対応し、現在4人の利用者が訪問マッサージに来てもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時や日々の業務において職員からの意見や要望を聴き、それらについて話し合い解決・改善・実践とフォローを行っている また、定期的に管理者が職員全員とのヒアリングを行って意見や要望などを聞く機会も設けている。	職員からの意見はカンファレンスの時や日常業務の中や連絡ノートに記入されている。また、統括による職員ヒアリングを年2回おこない意見を聞いている。職員からのヒアリングで「利用者が落ち着かれているのと午前中手厚くしたい」との希望があることがわかり、勤務時間の体制を見直した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修費用の補助や残業ゼロの取組、処遇改善加算の分配方法の選択などを行い職場の環境の改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を立案し、それに基づいて職員全員が参加する仕組みを構築している それらの研修で習得した知識を基に社内勉強会を実施して、知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため他事業所への訪問は行えないが同法人の他事業所とは定期的に会議を開催してサービス内容について話し合っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴・趣味・嗜好などを知り、ご家族に聞き取り本人様のお話を傾聴しながら少しずつ不安を取り除いて行くように努めている。		

京都府 グループホームかすたねっと 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍で長時間の面会ができないが電話で様子を報告し、ご家族様の要望などをお聞きしながら話し合い、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際には他サービスの説明もを行い、状態に応じては他事業所の紹介も行っている(特別養護老人ホームの紹介など)。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理などできる範囲で一緒に行い、自分で出来ることは出来る限り自分で行っていただくようにお声掛けしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご連絡を行い日々の様子をお伝えして、3か月に一度広報誌を作成してお渡ししている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望の美容院や昔から通っていた病院に継続して受診していただけるよう支援している。ご希望がある時は電話にて家族様やお知り合いの方などにお話をさせていただいている	入居時に生活歴や家族構成を聞いておられるが、十分ではない。また生活の中で、利用者がされていた仕事や懐かしい場所を聞きとられているが、記録としては十分とは言えない。馴染みの関係での取り組みの事例は、利用者が長い間していた仕事の話から、その仕事場を車で尋ねたり、生活の中で把握したことを生かして、台所の仕事に多く携わってもらったり、音楽を聴くことが好きな方には、バイオリンの演奏を部屋でもらうなどの取り組みをされている。	今、新しいアセスメントシートの作成を検討され、家族や関係のある方々の協力を得ながら利用者のことをよりよく知っていく予定をされている。そのため、その方の暮らし方の希望や、したいことなどを引き出す工夫をされることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやお手伝いなど利用者様同士が協力・談笑できるように職員は支援を行い、穏やかに笑いの出る楽しい生活ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族様から相談がある時はいつでも受け入れる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや何をしたいかは毎日の行動や言動などで理解し、みんなで様子観察して話し合っている。	入居時のアセスメントではADLを中心に聞いておられるが、QOLの向上を目指す想いの聞き取りにつながる項目が見られなかった。また、生活の中で把握したことはケース記録や連絡ノートで共有されているが、記録にかたよりが見られた。意思表示のできない方は、その方の安全安楽な生活を考えて対応され、また家族にも相談をされている。	検討中の様式で、家族や利用者に関わって来られた方々から、利用者のことを聞き出す工夫をされ把握に努められることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような人生を歩んでこられたか、またどういう食べ物が好きで何に興味があるかとか常に考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	例えば歌が好きな方にはテレビのYouTubeで昔の歌とか動画などを観て頂いたり、その人に合ったレクリエーションを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人一人と向き合い話し合い、またはモニタリングにてご本人・家族様の要望を聞き、主治医・看護師の意見提案を介護サービス計画を作成する	入居時に、今までのケアマネジャーや利用していたサービス、また、医療情報に加えて、家族や本人の希望も入れたフェイスシートを作成し、介護計画を作成している。介護計画の目標は短期6か月、長期1年に合わせて6か月のモニタリングをおこなっている。その上で再アセスメントをし、家族の希望や、医療情報を得た上で、介護計画(案)を作成してサービス担当者会議を開催している。また、随時、利用者の状態変化時には毎月のカンファレンスで検討して、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り、または夜勤者の申し送りなどで利用者様のその日の様子を伝え、記録を記入したり口頭で伝えたりし、情報を共有して介護計画の見直しとかもやっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人自身の望まれるサービスを考え、ケアの方法も考慮していく		

京都府 グループホームかすたねっと 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ることの多い方は出来るだけ本人でして頂き、出来ない方でも少しでも何か出来るようなことを見つけて毎日を楽しく過ごして頂けるように心掛けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に入所された際にはかかりつけ医について、先ずご本人、ご家族と相談してご本人にとって何が最善かを理解して、ご家族の決定を尊重することを応援している	契約時に今迄のかかりつけ医に継続受診できることや事業所の協力医療機関について説明をおこなっている。協力医療機関の月2回の訪問診療を希望される方が多いが、家族と継続受診される方は健診時には医療機関と情報交換をしている。協力医療機関は臨時の往診も可能で、緊急時は夜間でも対応してもらっている。月1回訪問歯科の診療や、歯科衛生士の口腔ケアを希望者は受けている。また訪問マッサージを4名の方が受けるなど、適切な医療を受けられるようにしている。訪問看護師は週1回来られ、健康チェックをもらっている。また、24時間オンコールで緊急時や不安な時は対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護職員との連携が出来るような体制を整えている よって介護職員はご利用者の事について何かあれば直ちに連絡を行い受診やアドバイスをを行っている また、週一回の看護師によるメディカルチェックも実施している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が医師の判断で入院した際に医療関係者との協議・情報交換を実施して、安心して治療が出来るような体制を整えている また、退院後は利用者様に適切な処置を行うような体制も整えている。		

京都府 グループホームかすたねつと 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の重度化や終末期の場合、主治医より説明内容をご家族様に報告して希望を聞き、職員も含めて今後の方針をを決定して変化に合わせた対応を行っている。	契約時に利用者、家族に「看取りに関する指針」で説明している。看取りの研修を実施し、欠席者は資料を基に学べるようにしている。利用者の重度化に伴い、主治医の判断で家族に伝えられ、家族、主治医、看護師、職員が話し合い、事業所での看取りに入られる方は看取りの計画を作成している。看取り期の家族は面会も可能で、泊られる方もある。この1年では、2人の看取りがおこなわれている。振り返りを行っているが、記録が作成されていず、今後は記録に残されることを検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時のために緊急時マニュアル・事故防止対策マニュアルを作成して定期的な研修を実施している また、消防署員指導の下、応急処置などの講習会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策について施設内で年2回の避難訓練を実施している そのうち1回は消防署立ち合いで指導とアドバイスを受けている。	火災の避難訓練は、年2回昼夜想定で実施し、歩ける利用者は階段を使い、参加されている。今年度はコロナ禍で消防署の立ち合いはない。自然災害(地震、土砂災害など)の訓練は実施を検討している。コロナ終息後は避難訓練を近隣に知らせることや、運営推進会議との関わりについても老人福祉委員の方と一緒に実施することが検討されている。備蓄品はコロナウイルスの災害時に使った物もあり、今後補充をしていかれる予定である。救急救命やAED研修は消防署の指導で実施していたが、コロナ禍で実施できていない。BCP(事業継続計画)は作成中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊重を傷つけないよう、またプライバシー確保のために接遇の研修を行い言葉と態度には特に気をつけている。	プライバシー保護の研修は内部研修で年1回実施され、出席できない職員は資料で学んでいる。接遇マニュアル、個人情報保護のマニュアルの中にプライバシーの項目を掲載している。利用者の呼称は〇〇さんと呼び、入室時には声をかけてから入り、トイレ誘導時には「ちょっと一緒に行きませんか?」と声をかけ大きい声で言わないようにしている。入浴時には自分でできる方には、羞恥心への配慮で、見守り、待つなどでしている。職員の気になる言動には管理者から注意をしている。	

京都府 グループホームかすたねっと 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の疎通が困難な利用者様については、日々の言動から思いを推測するように心掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムも大切にしながら利用者様の希望最優先で一人一人のペースで生活できるよう務める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはなるべくご自身で行っていたくよう声掛けをしている 意思疎通が難しい方はご家族様から好みの聞き取りを行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みに合わせて日々の献立や誕生日会・行事などのメニューを決めている 盛り付けや後片付けなど出来る方には手伝って頂いている。	朝食・昼食は事業所内で利用者と職員が作り、食材は個別配達や足りない物は職員が買いに行くなどしている。メニューは利用者と一緒に考え利用者の好みを取り入れて作成し、利用者とはできることを一緒にしている。夕食は外部の業者より届けられるが、盛り付けなどは、利用者と一緒にしている。行事食には事業所の予算立てがされている。、誕生日は本人の好きなものを作り、ひな祭り、節分、子どもの日などにちらし寿司などを作っている。、敬老の日には食べたい物のアンケートをとり、仕出し屋さんからとっている。出前は、お寿司やピザをとったり、ケーキは買ってきている。手作りおやつは、コンポート、ホットケーキ、ふかし芋などが作られている。普通食を食べている方が多いが、嚥下状態の良くない3人はムース食を食べておられる。利用者のできる力を生かせながら、利用者の好みに合わせた丁寧な食事作りをされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録をして把握している 各利用者様に合った食事形態にして、安全に召し上がって頂けるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや一部介助にて口腔ケアの支援を行っている また、歯科医による定期的な訪問診療も行う。		

京都府 グループホームかすたねっと 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを利用し、2～3時間の間隔で声掛けや誘導など行う 立位の難しい方はベッド上にて排泄介助を行っている。	排泄チェック表で一人一人の感覚をつかみ、トイレで排泄ができるようにしている。布パンツで自立の方はひとりで、他の方はリハビリパンツとパットを使用しているが、立位の難しい方はベッドで紙オムツを使用し介助している。トイレで排便をしていた利用者が、立位が取れなくなり、臥床の状態では排便が難かしかったので、2人介助でトイレで排便ができたという事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と食事の前に体操をして、食べ物はゆっくり噛んで食べられるようにする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様一人一人の体調に合わせて入浴を行い、入浴時の温度調節に気を使い快適に入浴できるよう配慮している。	週2回を基本に入浴をし、同性介助は希望があれば対応している。お風呂のお湯はオーバーフローで清潔を保っている。入浴剤や季節湯(柚子湯)は皆さんに喜ばれている。シャンプー類は好みの物を持って来られている方もおられる。職員と1対1でゆっくり話をしながらの入浴を喜ばれ、歌をうたうなどで、楽しまれている。湯船に浸かるのが難しい方でも、2人介助でお湯に浸かり気持ちよく入ってもらっているが、体制の取れない時はシャワー浴をしてもらっている。入浴拒否の方は声のかけ方の工夫で入られたり、翌日には入られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて布団を提供し、定期的に洗濯して清潔さを維持し、一人一人の生活習慣に合わせてゆっくり休んで寝られるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬の用量と内容を正確に知り、服薬による体調の変化が合った時に職員全員がわかるように管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活力によって出来ることを楽しく出来るようにして、気分を合わせてレクリエーションを支援している。		

京都府 グループホームかすたねっと 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に応じて季節に合わせて花見や紅葉を見に、近くを散歩したりドライブに出かけている。	コロナ禍では外出や散歩はできなかったが、秋頃から、近隣の散歩をおこなっている。春には近く（老人福祉委員さんの庭）でお花見ができ、秋には紅葉ドライブにも出かけ、事業所の駐車場で秋まつりの羊煮会をするなど、外気に触れ季節を感じる取り組みがおこなわれている。利用者の希望によりコンビニでの買い物も時々行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買い物同行が出来ない分、買い物代行を行っている。紛失してしまうリスクが高いため現金の所持はしていただかないようにして必要なときは事業所が立て替えている。。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話をかけている 家族様からの電話は取り次ぎ会話を楽しんでもらったり耳の不自由な方は筆談で伝えている 手紙も住所など記入してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の温度・湿度が一定に保たれるよう冷暖房や換気で調整している ホールや廊下は季節感を出すため、壁画などの作品を飾っている。	玄関やホールには季節の活け花が飾られ、リビング（ホール）は西側に大きい窓があり、明るく、利用者はゆったりと過ごされている。壁には利用者や職員と一緒に作った、季節を感じる大きい貼り絵の作品が飾られている。換気のため窓は開け、空気清浄機やCO2センサーは2台設置され、温度、湿度を常に知ることができる。ソファは廊下に置かれ、1人でゆっくりしたい時や気の合った方が話したいときなど寛げる場所となっている。廊下にも今までに作った壁画が飾られている。掃除は夜間に職員がしているが、昼間も適宜気が付いた職員が実施して、清潔を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し寛げる空間を作っている 自席も定期的に席替えを行い、利用者様同士、談笑できるようにしている。		

京都府 グループホームかすたねっと 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごしておられた時の大切なものを持参していただき居室に置いている 衣類などの洗濯物は一緒に片付けるようにし、整理整頓している。	居室は、押入れ、ベッド、空調が設置されていて、カーテンは好みの物を取り付けられている方もおられる。自宅で使っていた馴染みのタンス、テレビ、椅子、仏壇、遺影などを持って来られている。押入れが大きく収納ができるので、室内は広くすっきりしている。自分で作られた作品なども飾られている。掃除は毎朝職員が掃除機とモップ掛け、拭き掃除もして、清潔にされ居心地よく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所などは場所が分かるように表示し、案内板を設置している 共同で使用するティッシュペーパーなどは置き場所を変えないようにしている。		